



▲雷電神社(群馬県板倉町)

その方法としては「みんな集まる」「水垢離」「お百度参り」「神仏にゆかりある池の水替え」「太鼓を叩く」「雷電神社への参詣」といったことがなされました。とりわけて板倉町雷電神社は、近在から多くの人を集め、「水乞ひ数万／毎日近郷から殺到」「毎日万余」といった状況でした。とにかく危機的状況をなんとか回避したい気持ちで、たくさんの人々を集めておこなったことが、たびたび記録に残っています。こうした共通の願いごとには、多くの力を結集することが大切だったのでしょう。その効あってか(?), 8月9日には大雷雨と豪雨に見舞われます。当時の新聞の見出しには「雨乞利き過ぎて／雷公大暴れ／幸島では火事騒ぎ」と、上片田と東諸川ではそれぞれ物置1棟ずつを落雷で全焼したと。少々、天の神様もやりすぎといったところでしょう。

### 作柄を占い、神意を伝える作物予表

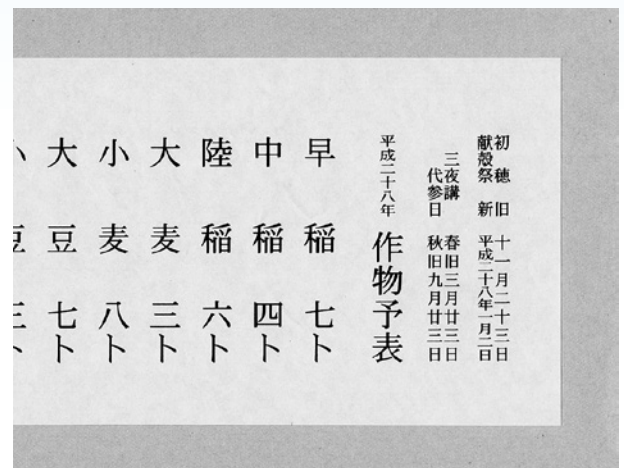
旧猿島郡内では、つくば市の月読神社から「作物予表」を授かってくる家もあるようですが、神社で占った作柄・天候を印刷して分けているもので、神意を文字に記して伝達するという方法としては、オナカマのクチトリのようでもあります。

ところで、この年の雨乞いのことを調べていたら、こんな見出しの新聞記事に出会いま

した。「雨乞ひは当方へ／必ずふります／三里四方に雷雨起す／応用電気雨」。電力応用の人工降雨法をもちいて、三里四方に大雷雨をもたらすというので、猿島郡農会が採用を考えているのだという。なんだか近年もそんな試みがなされましたが、この記事ではどんな装置だか想像もつきません。科学とのせめぎあいのなかで、結果的に雨を呼んだ神仏たちもがんばったといえましょう。降雨のコントロールとはなんと難しいことか……。

かくいうわたくしも、心の中のコントロールが難しく、空っ風が吹いていることが多いようです。うっかり雨乞いでもすると土砂降りになりそうなので、ほうっておこうと思います。

生涯学習課学芸員 立石尚之



▲月読神社の作物予表(部分)